



第 134 号

—平成30年6月20日発行—

公益財団法人 古代学協会だより

石作窯跡 緑釉

京都市西京区の大原野地区は、京都盆地の西を限る西山丘陵にかかる京都市域の南西端で、長岡京市や亀岡市に接している。大原野神社や善峯寺、十輪寺など名所も多いが、丘陵部はタケノコの名産地でもある。

平安時代前半期、この一帯は須恵器と緑釉陶器の生産地で

第に西山丘陵の洛西地区に移り、十世紀まで続くと考えられている。古代学協会は、一九七九年に京都市西京区大原野小塩町と石作町で緑釉生産窯跡の調査を行った。石作窯は、標高一五〇m程度の丘陵尾根近くに位置する。ここで平面が三角形の緑釉焼成用の窯を二基検出した。窯本体の遺存状態はあまり良くなかったが、出土遺物は多く、緑釉陶器とその素地や須恵器、それに匣鉢、三叉トチン、

あつた。平安京近郊での緑釉陶器生産は最初に北方の洛北地区で開始されたが、九世紀後半頃から次に西山丘陵の洛西地区に移り、十世紀まで続くと考えられている。古代学協会は、一九七九年に京都市西京区大原野小塩町と石作町で緑釉生産窯跡の調査を行った。石作窯は、標高一五〇m程度の丘陵尾根近くに位置する。ここで平面が三角形の緑釉焼成用の窯を二基検出した。窯本体の遺存状態はあまり良くなかったが、出土遺物は多く、緑釉陶器とその素地や須恵器、それに匣鉢、三叉トチン、

焼台などの窯道具類がある。陶器・土器類は塊、皿、耳皿、香炉蓋、唾壺など多器種で、陰刻で花文などが描かれた品のあることが注目される。

陰刻文は塊・皿の内面や蓋の外間に施されていて、多くは上や横から見た宝相華文を表しているが、手慣れたものから稚拙・抽象的なものまである。陰刻花文の精緻な描法の緑釉製品は、いわゆる猿投窯産が知られているが、その技術や文様の関係などが興味深い。

近年、西山丘陵辺での窯跡調査例も増えたが、石作窯はその中でも最初期に操業を開始したと見られる。古代学協会では、昨年度より科研費の助成を受け、石作窯跡資料を中心とした窯跡調査・研究を進めている。

(客員研究員
植山茂)



平安時代の緑釉製品生産の実態を明らかにするため、調査・研究を進めている。

重床面は十九本の円柱を放射状に配置し、その円柱の上にレンガ状の焼き台をのせたもので、篠西山一号窯の調査成果を参考にして造った。焼き台の上には事前に乾燥させていた三〇〇点の生製品を、小型品を煙道部近くに、鉢などの中型品は焚口に近いところに積み上げて入れる。窯

の構築から強制乾燥、生製品の窯入れを経て、同年十月十四日にやつと窯焚きの日を迎える。焼成に使う燃料は、クヌギなどの雜木七十四束、マツ二十束を用意して午前七時三十分に作業開始。窯内の温度変化を確認するために温度計を設置。燃焼実験作業開始から六時間後の午後二時



写真2 すさ乗せ作業のようす



写真1 天井架設作業のようす



写真4 窯出作業のようす



写真3 焼成作業のようす

写真はすべて筆者撮影

九世紀後半から十一世紀初頭の限られた時期に綠釉陶器を焼成した窯が出現する。この窯は二m程度の長さで、須恵器を焼成した窯とは異なっていることから「小型三角窯」と呼ばれている。

私はといえど、昭和五十八年に篠

西長尾五・六号窯の発掘調査を担当

して以降、小型三角窯に関心をもち、

特に発掘調査ではわからない窯の天

井部の様子、窯の焼成時間とその燃

料、施釉前の須恵器（還元焰で中火

度焼成）の素地と釉薬を施す綠釉陶

器（酸化焰で低火度焼成）の製品が

同じ窯で焼成できるのかどうかなど、

滋賀県蒲生郡

春日北窯跡で

一例が発掘調

査でみつかっ

ている。また

最近では亀岡

市篠窯跡群の

騎馬ヶ谷七号

窯の調

査をみた篠町在住の陶芸家（綿引恒

平さん）が、小型三角窯に興味をも

ち、小型三角窯を復元し、焼成実験

したいと（公財）生涯学習かめおか財団に申し入れ、「つながる須恵器

がおこなわれた。

この騎馬ヶ

谷七号窯の調

査をみた篠町在住の陶芸家（綿引恒

平さん）が、小型三角窯に興味をも

ち、小型三角窯を復元し、焼成実験

したいと（公財）生涯学習かめおか財団に申し入れ、「つながる須恵器

がおこなわれた。



写真2 木津川河床遺跡における伏見地震の液状化跡
中世の地層を引き裂く砂脈が近世の地層に貫通する（1986年筆者撮影、京都府埋蔵文化財調査研究センター発掘）

阪神・淡路地域の広い範囲に及び、須磨寺（神戸市）の本堂・三重宝塔などが崩れ、淡路島では千光寺の諸堂が倒れ、洲本城（洲本市）も壊れた。京都から淡路島まで約百キロの範囲、当時の首都圏を襲った大震災である。

京都府八幡市の木津川河床遺跡・内里八丁遺跡（写真2・3）など、京都盆地から淡路島にいたる多くの遺跡で、この地震による液状化現象の痕跡が見つかった。また、高槻市にある巨大な前方後円墳（今城塚古墳）や神戸市の前方後方墳（西求女塚古墳）の墳丘には、激しい揺れによって明瞭な地滑りが生じた。芦屋市では、七世紀末に建立して江戸時代には姿を消していた大寺院（芦屋廢寺）の調査で幅約1mの地割れがあり、その間に砂脈が見つかった。また、高槻市では、伏見地震の被害を受けた。

阪神・淡路地域の広い範囲に及び、須磨寺（神戸市）の本堂・三重宝塔などが崩れ、淡路島では千光寺の諸堂が倒れ、洲本城（洲本市）も壊れた。京都から淡路島まで約百キロの範囲、当時の首都圏を襲った大震災である。

京都府八幡市の木津川河床遺跡・内里八丁遺跡（写真2・3）など、京都盆地から淡路島にいたる多くの遺跡で、この地震による液状化現象の痕跡が見つかった。また、高槻市

にある巨大な前方後円墳（今城塚古墳）や神戸市の前方後方墳（西求女塚古墳）の墳丘には、激しい揺れによって明瞭な地滑りが生じた。芦屋市では、七世紀末に建立して江戸時代には姿を消していた大寺院（芦屋廢寺）の調査で幅約1mの地割れがあり、その間に砂脈が見つかった。また、高槻市では、伏見地震の被害を受けた。

阪神・淡路地域の広い範囲に及び、須磨寺（神戸市）の本堂・三重宝塔などが崩れ、淡路島では千光寺の諸堂が倒れ、洲本城（洲本市）も壊れた。京都から淡路島まで約百キロの範囲、当時の首都圏を襲った大震災である。

京都府八幡市の木津川河床遺跡・内里八丁遺跡（写真2・3）など、京都盆地から淡路島にいたる多くの遺跡で、この地震による液状化現象の痕跡が見つかった。また、高槻市

にある巨大な前方後円墳（今城塚古墳）や神戸市の前方後方墳（西求女塚古墳）の墳丘には、激しい揺れによって明瞭な地滑りが生じた。芦屋市では、七世紀末に建立して江戸時代には姿を消していた大寺院（芦屋廢寺）の調査で幅約1mの地割れがあり、その間に砂脈が見つかった。また、高槻市では、伏見地震の被害を受けた。

阪神・淡路地域の広い範囲に及び、須磨寺（神戸市）の本堂・三重宝塔などが崩れ、淡路島では千光寺の諸堂が倒れ、洲本城（洲本市）も壊れた。京都から淡路島まで約百キロの範囲、当時の首都圏を襲った大震災である。

京都府八幡市の木津川河床遺跡・内里八丁遺跡（写真2・3）など、京都盆地から淡路島にいたる多くの遺跡で、この地震による液状化現象の痕跡が見つかった。また、高槻市



京都が揺れた日々

寒川 旭

九七六年七月二十二日の午後四時頃（天延四・貞元元年六月十八日申刻）、京都が強く揺れた。「日本紀略」によると、雷のような響きと共に宮城諸司で多くの建物が壊れて倒れ、左右両京の建物はその数が甚だしく多かつた。八省院・農樂院・東寺・西寺・極樂寺・清水寺・園覺寺が倒れ、清水寺では五十人が圧死。翌日には十四回の地震があり、「左衛門陣後庁、堀川院廊舎、閑院西対屋、民部省倉三宇顛倒」、「『日本紀略』と書かれる。

千年の歳月が流れて一九七三年。古代学協会による平安宮推定民部省跡の発掘調査（註1）で、十四・六mの長さで東西にのびる、幅三mの築垣基壇跡が見つかった。さらに、その南（外）側には、大量の屋根瓦が幅約1mの範囲に崩れ落ちたままの状態で埋もれていた。崩れた瓦は平安時代中期以前、これを覆う地層に平安時代後期の瓦が含まれるので、九七六年の地震で築垣が倒れて大量の瓦が、そのまま放置されたと考えられている。

『扶桑略記』には京都で大きな被

害があり、近江国分寺の大門が倒れ、仁王像が壊れ、関寺で大仏が大破、近江国府の庁舎や雜屋の三十余棟が倒れたことが書かれている。近年、滋賀県教育委員会による近江国庁跡の調査で、この地震の痕跡が顔を出した。十世紀末頃に、国庁の多くの建物が廃絶し、大量の瓦・遺物・建材の破片などの瓦礫が、整地のため地面に敷かれていたのである。九七年の地震は京都盆地と琵琶湖の境界付近で発生したようだ。

平家滅亡から三ヶ月余り後の一一八年八月十三日正午頃（元暦二・文治元年七月九日午刻）。同じ地域がさらに激しく揺れた。『山槐記』には、京都の法勝寺や法成寺で大きな被害、琵琶湖の湖水が動いて湖岸で地面が裂けたと書かれる。鴨長明が『方丈記』で「恐れの中に、恐るべきは、ただ地震なりけり」とこそ、おぼえはべりしか」と筆を走らせた震災である。筆者が勤めていた産業技術総合研究所による活断層の調査で、琵琶湖の西側に沿つて南北にのびる琵琶湖西岸断層帯の南部が活動して引き起こしたM（マグニ

度）が花折断層。一六六二年の六月西側に比良山地がそびえ、沈降し続いた。琵琶湖周辺の低地は甚だかな東側が漫々と水を湛えて巨大な湖となつたのである。この断層帯の倒れたことが書かれている。近年、滋賀県教育委員会による近江国庁跡の調査で、この地震の痕跡が顔を出した。十世紀末頃に、国庁の多くの建物が廃絶し、大量の瓦・遺物・建材の破片などの瓦礫が、整地のため地面に敷かれていたのである。九七年の地震は京都盆地と琵琶湖の境

断層帯の断層活動によつて隆起する北側は弥生時代中期頃に活動した。高島市新旭町の針江浜遺跡の発掘調査では、湖底から約一メートルの深さで、かつての陸地（弥生時代II期末頃）が見つかり（写真1）、その地面には液状化現象による噴砂が流れ出していた。この地震で断層帯の東側が沈降して、湖岸が水没したと考

地殻変動で形成された。琵琶湖西岸断層帯の断層活動によつて隆起する西側に比良山地がそびえ、沈降し続いた。琵琶湖周辺の低地は甚だかな東側が漫々と水を湛えて巨大な湖となつたのである。この断層帯の倒れたことが書かれている。近年、滋賀県教育委員会による近江国庁跡の調査で、この地震の痕跡が顔を出した。十世紀末頃に、国庁の多くの建物が廃絶し、大量の瓦・遺物・建材の破片などの瓦礫が、整地のため地面に敷かれていたのである。九七年の地震は京都盆地と琵琶湖の境

断層帯の断層活動によつて隆起する北側は弥生時代中期頃に活動した。高島市新旭町の針江浜遺跡の発掘調査では、湖底から約一メートルの深さで、かつての陸地（弥生時代II期末頃）が見つかり（写真1）、その地面には液状化現象による噴砂が流れ出していた。この地震で断層帯の東側が沈降して、湖岸が水没したと考

た。

チユード）七・四前後クラスの大地震とわかつた。ちなみに、断層帶は断層のグループという意味である。日本最大の湖である「琵琶湖」は、地殻変動で形成された。琵琶湖西岸断層帯の断層活動によつて隆起する西側に比良山地がそびえ、沈降し続いた。琵琶湖周辺の低地は甚だかな東側が漫々と水を湛えて巨大な湖となつたのである。この断層帯の倒れたことが書かれている。近年、滋賀県教育委員会による近江国庁跡の調査で、この地震の痕跡が顔を出した。十世紀末頃に、国庁の多くの建物が廃絶し、大量の瓦・遺物・建材の破片などの瓦礫が、整地のため地面に敷かれていたのである。九七年の地震は京都盆地と琵琶湖の境

断層帯の断層活動によつて隆起する西側に比良山地がそびえ、沈降し続いた。琵琶湖周辺の低地は甚だかな東側が漫々と水を湛えて巨大な湖となつたのである。この断層帯の倒れたことが書かれている。近年、滋賀県教育委員会による近江国庁跡の調査で、この地震の痕跡が顔を出した。十世紀末頃に、国庁の多くの建物が廃絶し、大量の瓦・遺物・建材の破片などの瓦礫が、整地のため地面に敷かれていたのである。九七年の地震は京都盆地と琵琶湖の境

断層帯の断層活動によつて隆起する

西側は比良山地の西側斜面が崩れ落ちて町

が倒れ、花折断層に沿う葛川谷では

比良山地の西側斜面が崩れ落ちて町

平安博物館回顧展

古代学協会と角田文衛の仕事

京都文化博物館の三十周年を記念して、同館の前身ともいえる平安博物館をテーマとした企画展が開催されます。

本展覧会では、平安博物館でかつて展示された貴重な資料の数々や研究成果を回顧するとともに、その設立・運営にあたった古代学協会の歴史と最新の活動、さらに同協会を率いた角田文衛博士の没後十年にあた

ることから博士の仕事などを紹介します。

期間…平成三十年七月十日～九月九日

場所…京都府京都文化博物館三階
総合展示室

記念シンポジウム

「世界の博物館史と平安博物館」

—ICOM（国際博物館会議）京都
2019を見据えて—

日時…平成三十年八月十二日（日）
十三時三十分～十六時

講師…臍谷寿氏（同志社女子大学名誉教授）
山田邦和氏（同志社女子大学教授）

会場…京都文化博物館別館ホール
参加費…無料（ただし、本展覧会入場券半券が必要）

定員…一二〇名

講演後、展覧会担当者・ICOM関係者等を交えてパネルディスカッションが行なわれます。

博物館へ要事前申込。先着順。

※詳細は京都文化博物館のホームページをご確認ください。

『角田文衛の古代学1 後宮と女性』

後宮と女性

第二回配本となる本巻は、角田文衛博士の研究分野の中でも代表的な領域である後宮史・人物史をテーマに論攷を集成したものである。

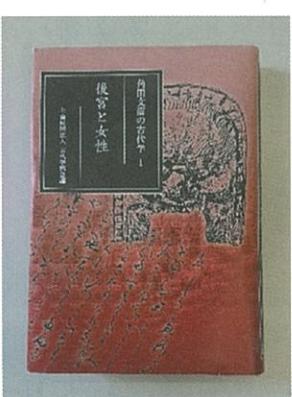
構成は次の通り。

第一部 後宮とその文化

日本文化と後宮、後宮の歴史、後宮の変貌、日本の後宮―その特殊性―、後白河院の後宮、賀茂の斎院をめぐつて

第二部 後妃と官女

平安時代の女性名、藤原袁比良―知られざる権勢家―、承香殿の女御、紫式部の本名、現在に続く血脉、崇徳天皇の生誕、建春門院、権典侍源仲子、豊原殿、高倉寿子、和宮身替り説を駁す



発行者	公益財団法人 古代学協会
ISBN	978-4-642-07896-2 C3321
定価	5,000円+税
発売	吉川弘文館
発行日	平成三十年六月下旬刊行予定
印刷	明文舎印刷株式会社
電話	075-235-13000
郵便番号	604-8131 京都市中京区三条通高倉西入ル
住所	菱屋町四八
電話	075-235-13000
発行日	平成三十一年六月二十日
印刷	明文舎印刷株式会社
電話	075-235-13000
郵便番号	604-8136 京都市南区吉祥院池ノ内町一〇